

研究主題	子どもの「やってみたい」があふれ 未来につながる幼児教育
研究の重点	幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実 ～長時間保育における幼児期にふさわしい生活～
研究の視点	一人一人が1日を通して充実した園生活を送るために

～子どもの思い、遊びをつなぐ～

認定こども園に通園する子どもの1日の過ごし方や生活の仕方が近年多様化してきています(長時間保育、短時間保育、預かり保育の利用など)。多くの子どもが時間を共有して過ごしている「教育時間(9時～13時半)」以外の時間にも、子どもの思いや遊びが続いていくよう支えるために、どのような援助や環境が必要かを、事例をもとに考えていきたいと思います。

実践事例 3歳児 ぱんだ組 『友達と一緒に、もっと楽しい!』

保育者の思い: 共通の思いをもって友達と関わりながら遊ぶ楽しさを経験してほしい

4月、進級児10名に新入園児6名を迎えて、スタートしたぱんだ組。それぞれ好きな遊びを見つけ、のびのびと過ごしてきましたが、いろいろなことに興味をもってやろうとする反面、興味が散りやすかったり、継続しにくかったりする姿が見られました。また、それぞれ興味のあることが違い、一緒に遊ぼうとしてもイメージの共有が難しく、経験の差もあり、幼稚園児と保育園児の交わりが少ない姿がありました。そこで、運動会をひとつのきっかけとして、クラスとしての共通のイメージをもち、友達と一緒に活動する楽しさを感じられるよう、気に入って繰り返し楽しんでいた「ノラネコぐんだん」シリーズの絵本をテーマに活動を進め、運動会では「ノラネコぐんだんきしゃぼっぽ」に出てくる”ポップコーン大爆発”をイメージした玉入れを行いました。



保育者の配慮、工夫



- ・共通のアイテムを身に着けることで、イメージが膨らむのではないかと考え、ノラネコぐんだんのお面の作成を提案し、子どもたちと一緒に制作しました。
- ・絵本に出てくるセリフを生活の中でも取り入れ、ノラネコぐんだんに親しみをもち、よりなりきって遊べるようにしていきました。
- ・きょうだいの小学校の運動会で「チェックリ玉入れ」を見てきた児が多く、子どもたちの中で話題が上がってきたので、玉入れを出して遊んでみました。その中でもさらにぱんだ組としての共通のイメージをもてるよう、玉入れをポップコーンに見立て、「ノラネコぐんだんがポップコーンを集める」という絵本に出てくるストーリーのイメージをつないでいきました。

その後の遊びの様子・子どもの姿

☆ノラネコのお面は自分で好きな色に塗ってつくったことで気に入り、身に着けたまま園庭に出て遊んだり、ノラネコダンスを踊ったりと、普段の遊びや生活の中でも身に着けて過ごす姿が見られていました。

☆絵本の中のお決まりのセリフを日常の中で使ったり、友達と同じものを身に着けたりしていることで、クラス内での共通のイメージが完成していきました。お面を着けているときの口調は「ニャー」になり、仲間意識も高まったように感じます。

☆玉入れは、ダンシング玉入れとし、曲をみんなが知っている「ガッチリガード」にしたことで、どの児も楽しみながら参加する姿につながりました。更に、「ノラネコぐんだん」「ポップコーン」という共通のイメージがあったことで、友達と一緒に、同じ思いで玉入れに参加できていたのだと思います。

★運動会後には、クラスとしての共通のイメージを生かし、ポップコーン屋さんを楽しみました。

☆ポップコーンを買った後は、ポップコーン屋さんのベンチにしていたものを車に見立て、「ポップコーンを持ってピクニックへ行く」という遊びが展開されていました。(写真右参照)

☆他の遊びをしていた児も、保育者の誘いかけや、好きな友達がポップコーン屋さんに加わっていったことで一緒に参加する姿が見られました。



まとめ

・これまではそれぞれが好きな遊びを楽しんでいた子どもたちでしたが、「ノラネコぐんだん」「ポップコーン」という共通のイメージをもつことができ、玉入れへの取組につながっていきました。さらに、運動会を経てできたクラスとしての共通のイメージがあることで、好きな時間にどの子がポップコーン屋さんで遊び始めても、そのときに「一緒に遊びたい！」と感じた子がイメージを共有して遊ぶことができていたのではないかと感じます。

・3歳児としては、子ども同士をつなぐ保育者の援助が遊びの継続や発展に大きく関わると感じました。それぞれが楽しんでいる並行遊びでも、保育者の声かけが子ども同士の遊びがつながるきっかけになったり、友達の遊びを真似して仲間に入ろうとしたりする姿につながっていきました。

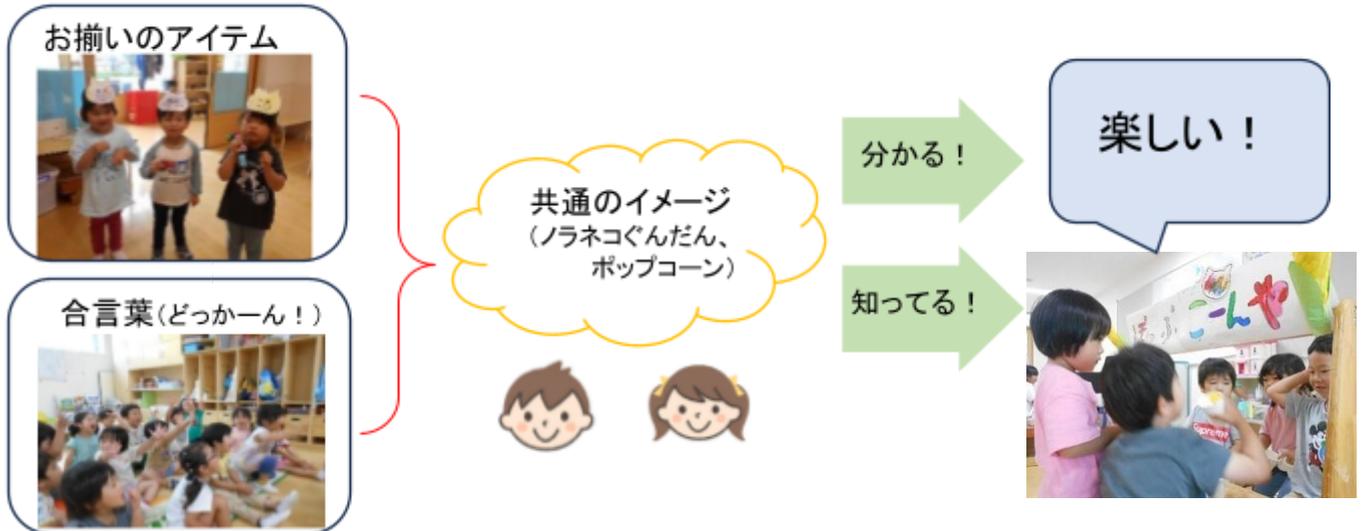
・クラス内でできあがった共通のイメージをもとに、子どもたちから発信される“やってみたい”という思いをすぐに実現できるようにすることや、個々で遊んでいる姿をキャッチしながら、保育者が遊びをつないでいくことが大切だと感じました。今後も“友達と一緒にだと楽しい”を感じながら遊びを展開していきたいと考えています。

職員の話し合いより

～思いが繋がった、遊びが継続したのはなぜだったのか～

【共通のイメージをもてる関わり】

個々の興味や経験はバラバラでしたが、園での共通体験でイメージを共有していく中で、徐々に同じ思いの中で遊べるようになっていきました。クラスで繰り返し楽しんでいた絵本をテーマに、友達とお揃いのアイテムを身に着けたり、絵本の中の台詞が合言葉となったりしながらクラスとしての一体感が生まれていきました。どの子どもイメージが「分かる」ことで、遊びに入っていくやすく「楽しい」につながっていったのではないかと思います。



【時間の使い方】

幼稚園児は、保育園児が午睡に入った後の降園までの自由遊びの時間があります。教育時間では見る参加をしていた児が、この時間になると実際にやってみようとする姿も見られていました。少人数でゆったりと取り組める時間を活用し、「やってみよう」という思いをつなぐことができました。少人数だからこそやってみる、その場にはなくても、遊びを介して個々の思いをつないでいく援助が重要でした。

少人数となる時間のより充実した遊びの実現が、一日の活動の充実にもつながるのではないかと考えました。

【保育者の役割】

3歳児としては、子どもたちからの発信のみで遊びを発展させていくのは難しいため、保育者が個々の遊びをつなぎながら、遊びをリードしていくことも不可欠でした。

また、少人数で過ごしていた時間も、どのように過ごしていたのかなど、些細なことでも保育者同士で共有し、次の活動につなげていくことも大切でした。保育者同士の連携が、子どもたちの遊びの発展にもつながることを再確認できました。

1号認定児

朝の家庭での時間	教育時間までの園生活 (自由遊び) (9:00～9:30)	教育時間 (9:30～13:00)	降園までの園生活 (自由遊び) (13:00～13:30)	降園：家庭での時間
----------	-------------------------------	-------------------	-------------------------------	-----------

2号認定児

朝の家庭での時間	教育時間までの園生活 (自由遊び) (7:00～9:30)	教育時間 (9:30～13:00)	降園までの園生活 (午睡、おやつ、自由遊び) (13:00～19:00)	降園：家庭での時間
----------	-------------------------------	-------------------	--------------------------------------	-----------

